

オープンソースの新時代を築く、サクセスストーリー

# OPEN EYE vol.23

2016 June

## INDEX

## エグゼクティブ対談

九州電力株式会社 理事  
情報通信本部 情報システム部長 植村 隆文氏  
×  
レッドハット株式会社 代表取締役社長 望月 弘一

## ユーザー事例 Success Story 富士通株式会社

電力小売事業者向けの顧客管理・料金計算  
パッケージ製品に「Red Hat JBoss BRMS」を  
採用、サポート力とコストの優位性を実感

## ○レッドハット 最新レポート

レッドハットが新年度事業戦略を発表 2025年へ向けて、クラウド、ITマネジメント、アプリケーションプラットフォームの3つの重要領域のさらなる拡大をめざす

## ユーザー事例 Success Story フリービット株式会社

Red Hat OpenStack Platformにより  
社内システムの基盤を刷新、  
インフラの標準化と自動化を推進

## ユーザー事例 Success Story 株式会社シーイー・モバイル

商用サービス基盤のオートスケールを  
目的にOpenStackを採用、  
トレーニングと認定試験でスキルを習得

ユーザー事例  
Success Story九州電力×レッドハット  
エグゼクティブ対談

## 社会インフラの生命線を担う 高信頼のITシステム その根幹を支えるレッドハット

九州電力株式会社 理事 情報通信本部 情報システム部長 植村 隆文氏 × レッドハット株式会社 代表取締役社長 望月 弘一

九州電力では近年、スマートメーターの導入などに伴うシステム対応に取り組んできた。そして、改革の中心となるシステムの基盤にRed Hat Enterprise Linux(RHEL)とRed Hat JBoss Middlewareを採用した。その背景と導入に至る決め手などについて、九州電力株式会社 理事 情報通信本部 情報システム部長 植村隆文氏に、レッドハット株式会社 代表取締役社長 望月弘一が伺った。

### 電力システム改革におけるITシステムに レッドハット製品を採用

Takafumi  
UemuraHirokazu  
Mochizuki

電力システム改革関連サーバーでレッドハット製品が稼働

望月弘一(以下:望月) 本日はお時間をいただきましてありがとうございます。まずは簡単にレッドハットの紹介をさせていただきます。弊社は1993年の創業以来一貫して、お客様が安心してオープンソースソフトウェア(OSS)をご利用いただける環境を提供すべく、活動を続けております。特に2002年以降は、エンタープライズ分野をビジネスの中心として、より安定した信頼性の高い製品やサービスをご提供できるように努めています。創業当初はRed Hat Enterprise Linuxと呼ばれるOS製品のみを取り扱っていたのですが、急速なOSSの広がりに応じて、Red Hat JBoss Middlewareに代表されるミドルウェア製品をはじめとして、仮想化・クラウドなど数多くの分野のOSS製品をご提供するまでに至っています。

植村隆文氏(以下:植村) オープンソースソフトウェアというソフトウェアの設計図が開示されているということで、通常のビジネスとして考えると競争優位の源泉を開示するのはちょっと考えられないと思いますが、どのようにしてビジネスとして成り立っているの



高信頼、高機能、  
コストバランスよく  
システムを構築するために  
レッドハットを選択

でしょうか。興味があります。

**望月** 素晴らしいご質問をありがとうございます。レッドハットではよくOSSを人類の共通財産である水に例えて説明します。OSSはソースがオープンで世界中の人間が誰でも入手し使うことができるという点で、水と同じ共通財産ということができると思います。

ただ、水は誰でも入手し使うことができますが、用途により、例えば飲料水として利用する場合にはそれがどのような水なのか、飲料に値するのかななどを水道局や飲料メーカーなどが保証する必要があります。

レッドハットでは人類の共通財産であるOSSを推進するために、水道局のように開発コミュニティとSlerなどのパートナーとユーザー様の間に立ち、調整や品質を保証することでビジネスとしているのです。

**植村** なるほど、よくわかりました。

**望月** ありがとうございます。九州電力様にはOSS及びレッドハット製品をご利用いただいています。そうした中、今年4月からの電力システム改革にあわせて開発されたITシステムが、OSであるRed Hat Enterprise Linux(以下、RHEL)とミドルウェアであるRed Hat JBoss Middlewareで稼働しています。

そこで、電力システム改革をはじめとする電力業界の動きについて、あらためてお聞かせ願えますでしょうか。

**植村** 今年4月の電力の小売全面自由化については、報道などで広く知られていると思います。電力の小売はこれまで、大規模施設用から小規模施設用、一般家庭用と、段階的に自由化されてきました。

その一連の取り組みが「電力システム改革」と呼ばれています。具体的には、2015年の電力広域的運営推進機関の設置、2016年の小売と発電の全面自由化、2020年の法的分離の3段階からなります。電力の小売と送配電、発電を分離することで、競争をうながすのが目的です。

**望月** 私も一市民として、電力システム改革は日本全体にかかわる極めて大きなパラダイムシフトだと思っています。その対応にあたり、ITシステムとしても新しく、また大変なチャレンジがあったのでしょうか。

**植村** そうですね、電力システム改革への対応にあたり、九州電力では大きく分けて4種類のITシステムを新しく開発する必要がありました。1つめは、スイッチングシステムと呼ばれる、利用者の乗り換えを受け付けて契約などを処理するシステムです。

2つめは託送システムです。送配電会社は送配電網の利用料金として、託送料金を電力小売業者に請求します。そのためのシステムです。

3つめは、営業システム(CIS:顧客情報システム)です。九州電力の電気を九州以外の地域でも販売するために、顧客管理や電力料金計算などのために新しいシステムを開発しました。

4つめとして、電力システム改革にあわせて現在スマートメーターの導入を推進しておりますが、それに関連するシステムです。スマートメーターは従来の機械式メーターに代わるメーターで、通信機能を備えており遠隔地からの検針や接続・切断が可能です。それによって、電気使用量の見える化やライフスタイルに合わせた電気の利用につなげたり、電力の遮断や復帰をリモートから操作するといったことが可能になります。

**望月** 近年話題になっているスマートグリッドを実現する次世代のメーターですね。

**植村** ええ、スマートメーターでは、電力会社側の施設にも、メーターからの大量のデータを集約して計算するシステムが必要となります。具体的には、メーターから送られてくるデータを受信するHead End System( HES)と、HESからデータを受けて集計し、見える化や小売事業者へのデータ提供などを行うMeter Data Management System( MDMS)の2つのシステムを開発しました。

**望月** 大量のデータとはどのぐらいの量になるのでしょうか。御社が主に担当する地域から考えると膨大な量になりそうですね。

**植村** 現在九州の世帯数は約800万世帯と言われています。そこから30分毎に電気使用量等のデータが送られてくるわけです。それを高速かつ正確に集約及び各種処理を行う必要があります。

**望月** 800万のデータが30分毎ですか!それは他に

例のない膨大なデータ量になりますね。しかも社会インフラを支えるシステムとして絶対の信頼性が必要なわけですね。

**植村** おっしゃる通りです。その絶対の信頼性が必要な4種類の新システムの基盤として、今回御社のオペレーションシステム(OS)とミドルウェア(MW)を全面的に採用しました。約200台のサーバーで現在、トラブルもなく安定的に稼働しており、担当者からも実に高品質であると聞いています。

**望月** レッドハットのOSであるRHELに代表されるOSSはかつては無料の代替品と思われ、商用ソフトウェアより信頼性が劣るものと見られていました。しかし、レッドハットのエンタープライズ向けディストリビューションの積極展開などにより、いまでは信頼性やサポート体制が大幅に向上して、企業の基幹システムから証券会社のシステムまで、ミッションクリティカルな環境でごあたり前のように利用されています。九州電力様のように社会の根幹をなすインフラでOSSが使われていることに、レッドハットとして誇りと責任を感じます。

**植村** 電力輸送といった電力インフラのシステムは、社会インフラの根幹となる決して止めてはいけないシステムです。私が電力輸送部門畑出身ということもあって、「スマートメーターなどのシステムは、電力輸送の制御システムと同じだけの信頼性や可用性、品質を担保すべきだ」と、口が酸っぱくなるほど言っています。そのための基盤としてレッドハットを信頼しており、社会インフラを作ることができたと思っています。

**望月** 素晴らしいお考えですね。社会や人命を支える仕組みをITが支える場面が、今後も加速度的に増えてくると思います。我々もその一翼を担う者として改めて身の引き締まる思いです。

また、嬉しいお言葉をありがとうございます。大変光栄です。

**植村** 今回、電力システム改革の基盤として採用を決めた理由の1つとして、弊社として過去にレッドハットOSでのシステム構築、運用、保守の経験があった点がありますが、さらにはコスト面でも大きな効果を実感することができ、大変満足しています。

電力システム改革における導入を機に社内システムでのRHEL採用を拡大

**望月** 既に多くの実績をお持ちだったうえ、今回はレッドハット製品によるコストメリットも実感していただき、大変嬉しい限りです。ありがとうございます。

ところで、現在のように九州電力様がOSSやレッドハット製品を数多く採用いただいているきっかけはどういったものなのでしょうか。

**植村** そうですね、2000年頃、世の中でインターネットが普及してきましたが、それにともない顧客とのやり



とりや社内コミュニケーションなど、企業を取り巻く環境としてもシステムに求められることが多様化してきました。そこで、弊社としてもITによる業務のさらなる効率化と高度化のために、オープン系技術を活用したシステム開発が重要視されるようになってきました。

**望月** 2000年頃という、レッドハットが最初のRHELをリリースしてエンタープライズビジネスに舵を切ったのが2002年でした。

**植村** ただ当時はUNIXやWindowsサーバーが乱立しており高コストになっているという問題がありました。さらにITシステムを預かる組織としての問題点として、バラバラのOSやミドルウェアなど、製品ごとに技術を習得する必要があり、非常に非効率であるという点がありました。

**望月** なぜ今回の電力システム改革関連のシステムにRHELを採用されたのでしょうか。

**植村** 汎用サーバーで動作することや、充実したサポートが受けられることが大きなポイントでした。また、オープンな技術で新しいシステム開発をするというのが最大の目的でした。

結果としてそれらの目的を満たしつつ、さらには大幅なコストダウンが実現されました。最初に社内ポータルの基盤としてレッドハットのOSを採用しましたが、電子メールや社内通達文書、スケジュール管理など、社内の重要なコミュニケーション基盤として現在もしっかり稼働しています。

**望月** OSのRHELだけでなくミドルウェアも弊社のRed Hat JBoss Enterprise Application Platformを導入いただいています。やはりRHELでの実績が決め手となったのでしょうか。

**植村** その通りです。現在ではほとんどのサーバーで御社のOSとミドルウェアが稼働しています。高品質でシステムの性能や機能はまったく問題なく、移行したことによる大きなトラブルなども起きていません。そのうえで、コストは大きく低減しています。

**望月** レッドハットとしては、OSだけでなく、アプリケーション開発基盤やクラウド、IoTなどのビジネスを伸ばしていきたいと考えています。OSのビジネスはこれまでと同じく成長させながら、それ以外のビジネスをOS以上に成長させて、2020年に向けて5対5の割合にもっていききたいと考えています。今後は御社に対してもOS以外のレイヤーでの情報提供や提案活動を今まで以上に行っていきたいと考えています。

**植村** はい、ぜひお願いします。楽しみにしています。

Red Hat JBoss Data Virtualizationにより、短時間で複数のソースからのデータ抽出を実現

**望月** そのOS以外の製品といったところでは、九州電力様には、業務ごとに異なる複数のデータベースを仮想的に1つのデータベースに見せる製品「Red Hat JBoss Data Virtualization (JDV)」もご採用いただきましたね。

**植村** ええ、経営情報分析基盤のデータ抽出の件ですね。これにも電力システム改革が関係しています。

既存の営業システムには九州内のお客様のデータが入っている一方で、電力小売自由化に伴い、新しい営業システムには九州以外のお客様のデータが入っていました。これら2つのデータを迅速に適宜抽出して把握するために必要となりました。

ただし、構築が決まったのが2015年冬頃で、電力小売自由化が2016年4月だったため、短期間で完成させる必要がありました。そのため、既存の手法では時間的に間に合わない可能性が高く、担当者が頭を悩ませていたようです。また、経営情報を分析する基盤としては今後もさまざまなデータの追加や連携を柔軟に素早く行える必要があります。しかもなるべく

## 設立1周年を迎えた九州・中国営業所でさらなるお客様サービスの向上と市場拡大を図ります



追加コストをかけずに試すことができるという点が極めて重要だと考えていました。この課題に対し、御社製品がジャストフィットしました。

九州・中国営業所開設により、ベストタイミングでサポートを強化

**望月** 経営分析基盤へのJDVの導入にあたっては弊社のコンサルティングサービスをご利用いただきましたが、いかがでしたでしょうか。

**植村** 今回初めての導入であったためレッドハットのコンサルタントからの技術支援、ノウハウ提供が不可欠でした。製品だけではなく、プロフェッショナルによる的確かつ正確なコンサルティングを受けられたことが、成功につながったと思っています。

今回の件に限らず、レッドハットの技術支援コンサルティングについては、現場の担当者やマネージャー達も大変高く評価しています。

**望月** ありがとうございます。レッドハットでは、サポートやコンサルティング、トレーニングといったサービスのさらなる強化を事業戦略の1つに掲げています。といっても、私たちはSierなどのパートナーと競合するわけではなく、コンサルティングによりパートナーや顧客にナレッジを委譲するという位置づけです。お客様の環境での製品の評価や、導入のための技術的支援などにより、製品のもつポテンシャルを導入初期から最大限に高め、お客様にご提供します。

昨年5月には、そういった技術支援やサポート、情報提供を各地域で強力に展開すべく、福岡市に九州・

中国営業所を開設しました。

**植村** レッドハットの九州・中国営業所の設立により、電力システム改革に向けた格好のタイミングでサポート体制を強化してもらいました。電力会社のシステムは、24時間365日、決して止まることのないミッションクリティカルな環境にあります。それに即応できるサポート体制として、人員を配置していただき、今後も安心してレッドハット製品を使い続けることができると感じています。

**望月** ありがとうございます。そう言っていただけると営業所のメンバーにも大きな励みになると思います。

最後になりますが、今後レッドハットに期待することをお聞かせ願えますでしょうか。

**植村** はい、電力業界は今後、これまで以上に大きな変化への対応が求められてきます。九州電力も現在、さまざまなチャレンジに直面しています。電力自由化による九州地域以外での電力の提供や、さらにはガスの自由化など、多様なメニューを揃えていく必要が出てきます。多岐にわたる事業を新規展開していくには、常に新しい挑戦を続けていく姿勢が肝要です。

ITシステムを担う立場としても、業界が激変していく中で、変化に迅速に対応するためには、単なる丸投げでベンダーの意のままにシステムを導入するのではなく、オープンな技術を使って主体的に進めていくことが重要です。レッドハット製品を使うことで、より柔軟で高機能、コストバランスよく高品質なシステムができることを期待しています。

これからも密に情報交換をしながら、レッドハットと未長くお付き合いしていきたいと思っています。

### レッドハット九州・中国営業所は、地域発展への貢献を目指します

私たちレッドハットは昨年5月、九州・中国・沖縄地域での顧客サービスのさらなる向上と市場拡大を目的に、東京本社、西日本支社に次いで国内における3番目の拠点になる九州・中国営業所を開設しました。

レッドハットでは、既に官公庁・公共団体、電力会社、運輸、製造、流通、金融、教育機関などを中心に多くのお客様がいらっしゃいます。商業地域に近い、福岡市博多区中洲に位置する営業所では、顧客の皆様へのサポートを強化するとともに、同地域におけるその他の主力企業、

産業へアプローチしてまいります。

レッドハットでは、会社の設立理念でもある、オープンソースソフトウェアコミュニティとの共存、共栄の観点から、この地域からのオープンソースソフトウェア開発コミュニティへの参画をさらに強めるとともに、先端技術・ソリューションの提供を通じて、地域のさらなる発展に寄与してまいります。



レッドハット 西日本支社 九州・中国営業所 所長 廣瀬 圭祐















## ○レッドハット最新レポート

レッドハットが新年度事業戦略を発表

# 2025年へ向けて、クラウド、ITマネジメント、アプリケーションプラットフォームの3つの重要領域のさらなる拡大をめざす

2016年4月、レッドハットはメディア向けに新年度事業戦略を発表した。コアコンピタンスとなるRed Hat Enterprise Linux (RHEL) の優位性を維持しつつ、クラウド、ITマネジメント、アプリケーションプラットフォームの3本柱を重点領域に掲げ、将来の成長基盤を確立させることを目指す。その上で17年度の最重要テーマとして、OpenStackでトップシェアを獲得、Ansible ビジネスの立ち上げなど、4項目を掲げた。

### エンタープライズにオープンソースによる包括的なソリューションを提供

2016年度の業績(グローバル)について、代表取締役社長 望月弘一は「継続かつ安定した事業成長を達成できた」と報告した。日本国内の事業では「クラウド/モバイル事業」、「ビッグデータ&IoT事業」、「データセンター刷新事業」の3つを重点事業分野として掲げ、着実な成長を歩んできた。11月には国内最大級OSSイベント「レッドハット・フォーラム2015」を開催、また同月に代表取締役社長として望月が就任した。

2017年度の取り組みについて望月は「10年先の2025年、企業ITがどのような環境で動いているかを見据えたうえで、そこに向けた確固たるビジネス基盤を築く」と話す。

昨今のクラウド技術の進化により、2025年には、企業システムは特定の環境に依存しないオープンな環境になっていると容易に想像される。現在のような固定的なIT環境ではなく、多くのITがソフトウェアで制御されるような時代だ。そんな10年後を見据えて「まず2020年までに、新たな事業ポートフォリオを大幅に成長させる」とする。現在、RHELとその他の製品の売上比率が8対2となっているところを、5対5までもっていく。そのために2017年度に育てていく重点領域として「クラウド」、「ITマネジメント」、「アプリケーションプラットフォーム」の3本柱を掲げ、2017年度にレッドハットが実現しなければ

ならないテーマとして以下の4項目を挙げた。

### 2025年へ向けたビジネス基盤の基礎を築く 本年度4つの重要テーマ

2025年を見据えたうえで、2017年度最重要テーマとして望月が掲げたテーマは次の4つだ。「OpenStackでトップシェアを獲得する」、「Ansible ビジネスを立ち上げる」、「企業によるコンテナ活用を定着させる」、「全てのクラウド、オンプレミスで、RHELのトップシェアを取り続ける」。

まずOpenStack。クラウド環境を構築するためのOSSで近年急速に普及している。レッドハットはOpenStack Foundationのプラチナメンバー企業として早期から開発に参画し、コミュニティへの貢献度もトップレベルを誇る。レッドハットが提供している商用版OpenStackとなるRHEL OSPは5月に新バージョンをリリースし、トップシェアの維持およびさらなる拡大を目指す。

2つめのAnsibleはIT管理自動化のための新製品だ。アプリケーションのデプロイ、OpenStackインストールの自動化、コンテナ導入など次世代の自動化ツールとして大きく期待されている。実質的には今年から展開が始まる新製品で、DevOps推進の有効打としてお客様やパートナーへ訴求し、ビジネスを確立していく。

3つめのコンテナ活用に該当するものはPaaS製



レッドハット株式会社 代表取締役社長 望月弘一

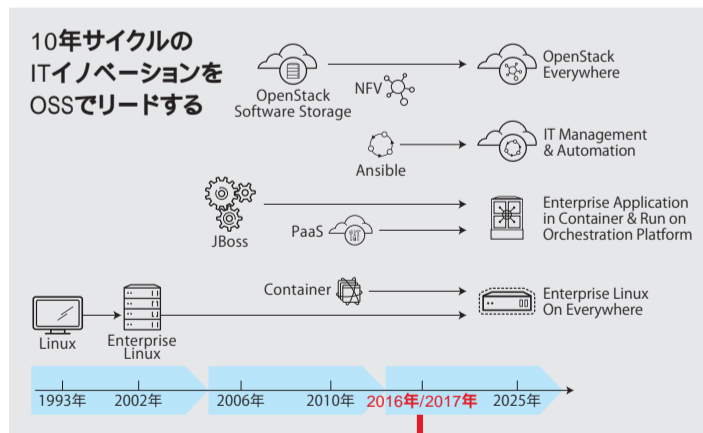
品「OpenShift」だ。近年Dockerを契機にコンテナ技術が急速に普及している。OpenShiftはDockerのコンテナAPIをネイティブにサポートしているため、実質的にはDockerがなくてもDocker同様のことが可能となる。レッドハットはOpenShiftを通じて企業にコンテナ活用というモダンなアプリケーション開発や運用を定着させるように働きかけていく。

最後はレッドハットとしての真骨頂でありコアビジネスとなるRHELである。すでに物理/仮想、プライベートクラウド、パブリッククラウドの全ての分野に展開しており、今ではディストリビューターやクラウドのサービスプロバイダーなど1,000社を超える販売店チャネルがある。ここは維持しつつ、新しく画期的な展開として2015年11月に発表したマイクロソフトとの戦略的提携がある。Microsoft AzureはRHELやJBossなどレッドハット製品をサポートし、レッドハット製品はLinux版の.NETとなる.NET Coreをサポートする。マイクロソフトとレッドハットからなる、ハイブリッドクラウドの統合的な管理も進めていく。

望月はレッドハットの指針として「オープンソースによる技術革新を行うユーザー、開発者、パートナーの懸け橋となり、お客様のビジネスイノベーションを実現するための最重要パートナーになることを目指す」とあらためて強調した。

\*「Red Hat Enterprise Linux OpenStack Platform」は、2016年5月の新バージョン発表時に「Red Hat OpenStack Platform」に名称を変更しました

### 2025年に向けたビジネス基盤の基礎を築く



#### 2017年会計年度の最重要テーマ

- 1 OpenStackでトップシェアを獲得する
- 2 Ansibleビジネスを立ち上げる
- 3 企業によるコンテナ活用を定着させる
- 4 全てのクラウド、オンプレミスで、Red Hat Enterprise Linuxのトップシェアを取り続ける

### 中部営業所開設のお知らせ

大阪、福岡に続き、関東以南での営業・顧客サポート体制を強化

中部地域での顧客サポートのさらなる向上と市場拡大のため、レッドハットは2016年5月2日、愛知県名古屋市中区へ中部営業所を開設しました。製造業や電力会社など、同地域のお客様に対してより密接にサービスおよびサポートを提供しながら、地域の他の主力企業や産業へアプローチしてまいります。より多くの地域企業の皆様に先進的なIT構築やオープンソースの活用を推進いただけるよう、尽力してまいります。

中部営業所 所長 秦京三



レッドハットの製品、サービスに関するお問い合わせはこちらまで >>> セールス オペレーションセンター 0120-266-086(携帯電話からは 03-5798-8510)【受付時間/平日9:30~18:00】e-mail: sales-jp@redhat.com  
OPEN EYEの配送先変更、配送停止はこちらから >>> <http://jp.redhat.com/rd/oe1/> その他お問い合わせ >>> レッドハットマーケティング本部 e-mail: openeye-jp@redhat.com



redhat.jp.redhat.com

レッドハットニュースレターにぜひご登録ください!!  
最新ニュース、キャンペーンやイベント・セミナー情報など、旬のトピックをお届けします(月1回配信)



OPEN EYE Vol.23  
2016年6月 発行

発行:レッドハット株式会社  
東京都渋谷区恵比寿4-1-18  
tel:03(5798)8500

Copyright 2016 Red Hat Inc. All Rights Reserved. "Red Hat", "Red Hat Enterprise Linux", "JBoss", "OpenShift"および"Shadow Man"ロゴは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の登録商標です。Linuxは、Linus Torvalds氏の登録商標です。OpenStackR Word MarkとOpenStackのロゴは、米国とその他の国におけるOpenStack Foundationの登録商標/サービスマークまたは商標/サービスマークのいずれかであり、OpenStack Foundationの許諾の下で使用されています。Red Hatは、OpenStack FoundationやOpenStackコミュニティの系列企業ではなくまた、支持や出資を受けていません。Microsoft, Encarta, MSN, およびWindowsは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他全ての登録商標及び商標の所有権は、該当する所有者が保有します。本誌に掲載された内容の無断複製・転載を禁じます。